

## 本検討会における論点と今後の進め方

ハザードマップのユニバーサルデザイン  
に関する検討会(第1回)  
令和3年12月23日

# ハザードマップのユニバーサルデザインに関する検討会の論点

- ハザードマップは、住民の避難に役立つことが期待されている一方、情報の理解には一定のハードルがあり、活用に結びついていない場合もある。
- 現在のハザードマップは、利用者の特性、例えば視覚障害に対応しておらず、ハザードマップに示している紙面の情報へのアクセスが困難な場合がある。

## 【議論にあたっての留意点】

- ・利用者に共通して伝えるべき情報と、利用者の特性に応じて優先して提供すべき情報の分類について
- ・全国的に共通化すべきものと、各市区町村の裁量に委ねるべきものの分類について
- ・避難行動要支援者、及びその支援者のいずれにも分かる情報の在り方について

## ハザードマップのユニバーサルデザインに関する検討会（論点）

- 浸水深
- 浸水継続時間
- 家屋倒壊等氾濫想定区域
- 指定緊急避難場所等
- 土砂災害警戒区域
- 避難経路

水害ハザードマップで  
提供する情報

わかる

- 利用者の理解につながるための情報の整理、抽出、変換
- 参照情報や補足情報の整理 等

伝わる

- 利用者の特性に応じた提供方法の整理（音声、点字、デジタルツール等）
- リスクコミュニケーションのあり方等

検討会で検討事項

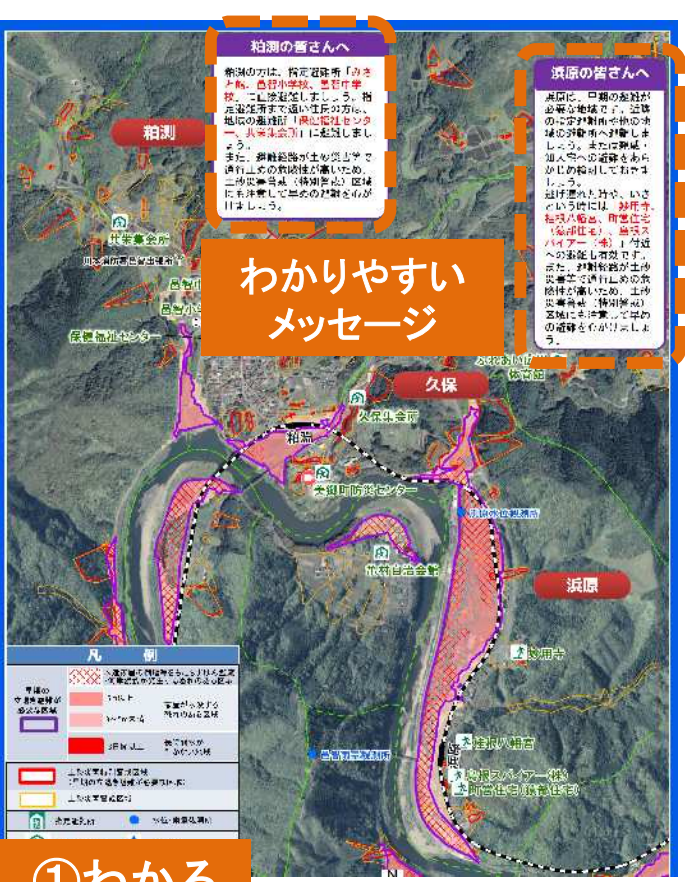
的確な避難行動

- マイ・タイムラインの取組
- 個別避難計画作成の取組
- 地域防災力の向上と避難支援体制の整備

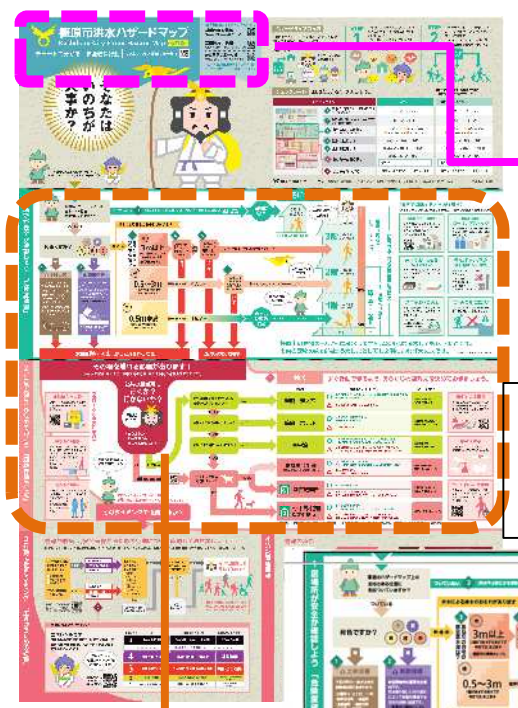
「水害ハザードマップ作成の手引き(改定版)」等に反映させ、全国の市区町村において取組を促進

# 地図情報、ハザード情報、避難に関する「わかる」「伝わる」情報の展開案の提示

- ハザードマップで示した情報が「わかる」ために、必要なハザードマップの要素を特定する。
- 情報が「伝わる」ための、デジタル技術等の活用の可能性を提示する。
- 先進自治体の取り組み事例から整理する。



●地区毎にリスクと避難場所等に関するメッセージを記載したハザードマップ



●紙版のハザードマップからQRコードにより、GPSで現在地の浸水リスクを提供するデジタル技術を活用したハザードマップ



**①わかる**

●避難行動をチャートで示すことで、住民に適切な避難行動を指南するハザードマップ

引用：檜原市洪水ハザードマップ

# 本検討会の進め方(スケジュール)

## ■ スケジュール

第1回検討会  
(R3年12月23日)

- ・ 現状および課題の確認
- ・ 検討内容の確認
- ・ 論点について意見交換

第2回検討会～  
(複数回)

当事者等が参加する  
ワーキング(複数回)

### 【当事者等が参加するワーキングの概要】

- ・ 大田区で、障害当事者等の参加を得て  
主に「優先的に提供すべき情報」「伝わる方法」  
について意見交換  
(デジタルツールや点字、立体地図等を活用)

検討結果のとりまとめ  
(R4年秋頃)

水害ハザードマップ作成の手引き(改定版)  
(R4年度末予定)

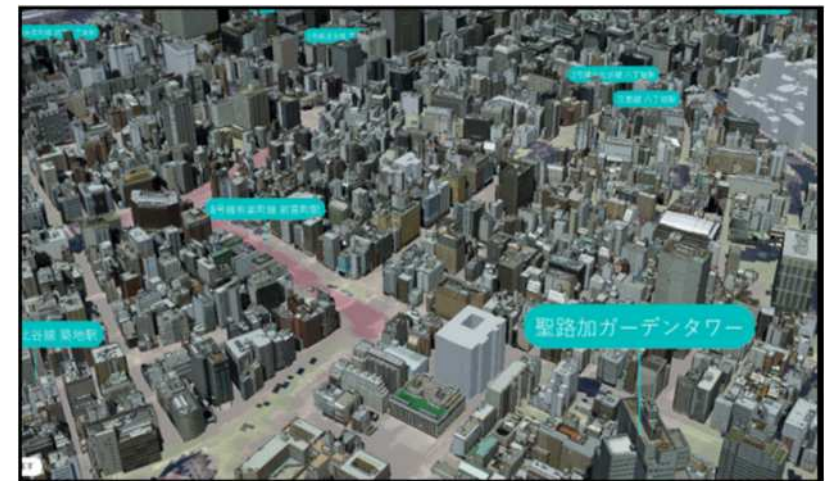
令和3年度

令和4年度



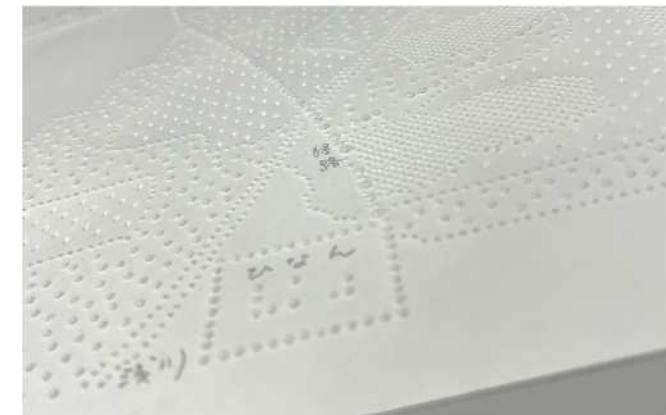
# 障害当事者等が参画するワーキングの進め方(案)

- ハザードマップの理解・活用のためツールとして、デジタル技術を活用した手法(チャットボット、3D表示)や触地図等を参加者に体験していただき、意見交換を実施。
- モデル地区は大田区とし、参加者は、一般住民及び地図情報を取得しづらい視覚障害当事者や特別支援学校在校生等を予定。



ハザードマップ情報の3D表示(イメージ)

引用:国土交通省 PLATEAU



ハザードマップ情報の触地図化(イメージ)

引用:長野高専 藤澤教授提供資料